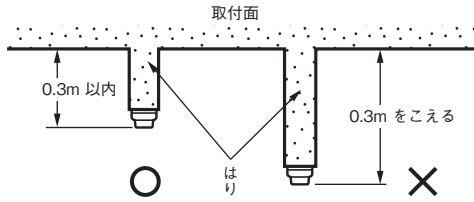
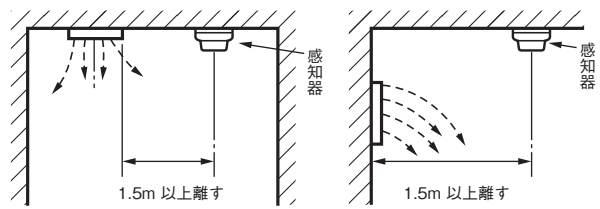


差動式スポット型・定温式スポット型感知器

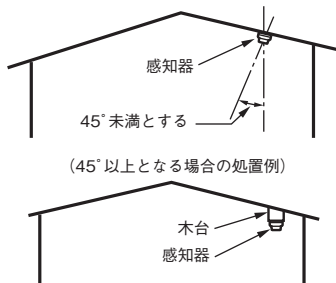
感知器の下端は取付け面の下方0.3m以内の位置に設けること。



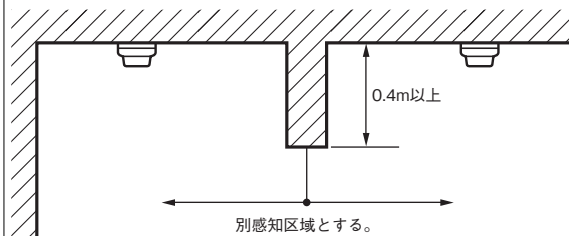
感知器は、換気口等の空気吹出口から1.5m以上離れた位置に設けること。



感知器は取付け面を基準に45度以上傾斜させないように設けること。

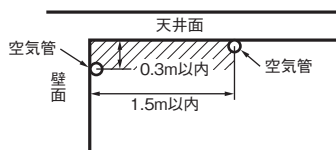


感知区域は0.4m以上のはり等で分けられる。

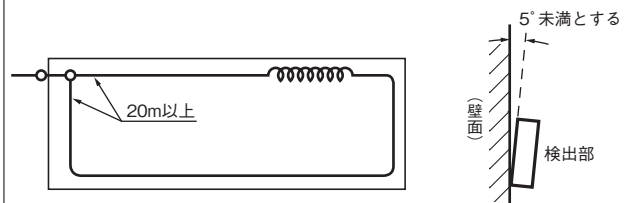


差動式分布型感知器

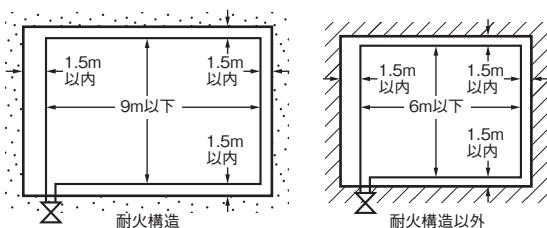
空気管は、取付け面の下方0.3m以内の位置に設け、かつ感知区域の取付け面の各辺から1.5m以内の位置に1本以上設けること。法的には斜線内の位置に空気管をもうければよい。通常は天井面と壁面の接点(コーナー)に取付ける。



- 空気管の露出部分は感知区域ごとに20m以上とすること。小部屋等で感知区域が小さく空気管の露出部分が20mに満たない場合は空気管をコイル状に巻いて全長を20m以上とする。
- 一つの検出器に接続する空気管の長さは100m以内とする。
- 空気管の検出部は垂直面に対して5度以上傾斜させないように設けること。

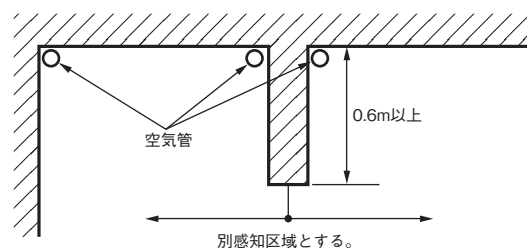


空気管の相互間隔：原則として相対する空気管の相互間隔が主要構造部を耐火構造とした防火対象物又はその部分については9m以下、その他の構造の防火対象物又はその部分については6m以下となるよう設けること。



※以上は原則ですが例外的なものも認められています。

感知区域は0.6m以上のはり等で分けられる。

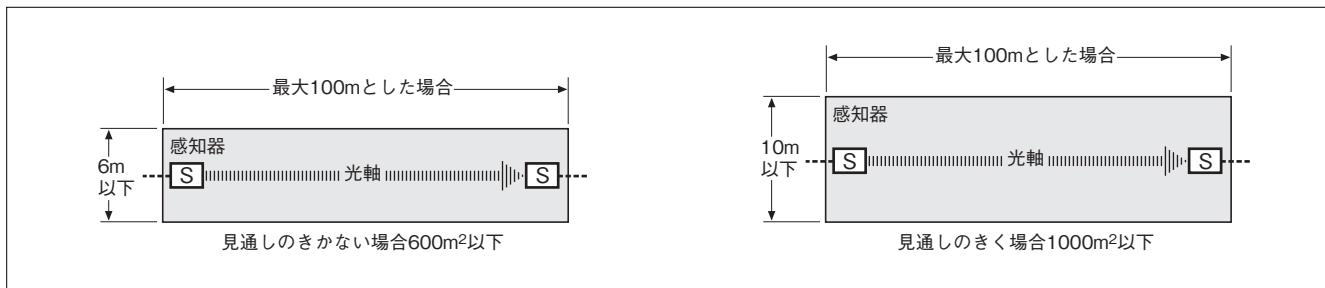


光電式分離型感知器

■警戒区域

●光電式分離型感知器を設置した場合に限り、一の警戒区域の一边の長さを100m以下とできる。(通常は50m以下)

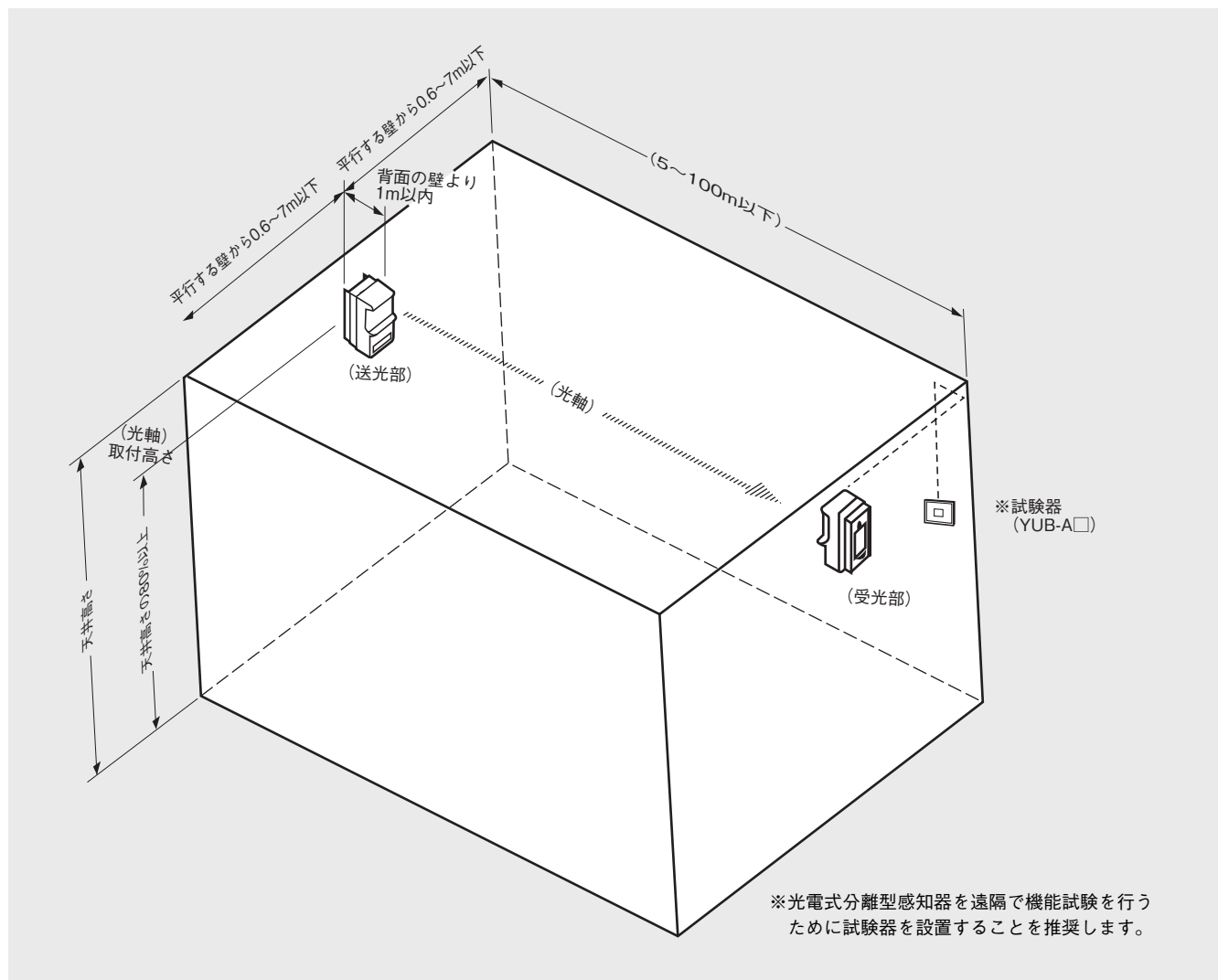
●一の警戒区域の面積は、従来どおり、600m²以下で、見通しがきく場合は1,000m²以下とできる。



■設置基準

- 感知器の受光面が直射日光を受けないように設けること。
- 感知器の光軸(感知器の送光面の中心と受光面の中心を結ぶ線)が並行する壁から0.6m以上はなれた位置となるように設けること。
- 感知器は壁によって区画された区域ごとに、当該区域の各部分からの光軸までの水平距離が7m以下となるように設けること。
- 感知器の送光部および受光部は、その背面の壁から1m以内の位置に設けること。

- 感知器を設置する区域の天井等(天井の室内に面する部分は上階の床もしくは屋根の下面)の高さが20m未満の場所に設けること。この場合において、当該天井等の高さが15m以上の場に設ける感知器にあっては、1種のものとする。
- 感知器の光軸の高さが天井等の高さの80%以上となるように設けること。
- 感知器の光軸の長さが当該感知器の公称監視距離(5~100m)の範囲内となるように設けること。



感知面積等一覧表

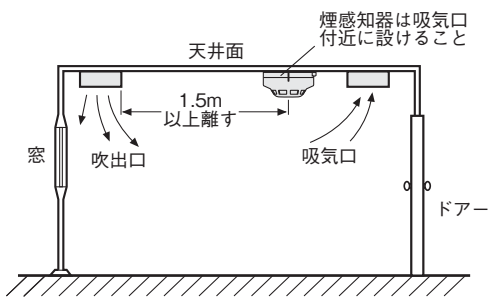
高さ	構造	差動式・補償式 スポット型		差動式 分布型	定温式スポット型			煙感知器スポット型		光電式分離型		炎感知器				
		1種	2種	1・2種	特種	1種	2種	1・2種	3種	1種	2種					
4 m 未 満	耐 火	90	70	一全長 100 m 以下 二露出長 20 m 以上	70	60	20	150	50	公称監視距離 5m以上 100m以下						
	非耐火	50	40		40	30	15									
4m 以上 8m 未 満	耐 火	45	35		×	35	30	×	75			×				
	非耐火	30	25			25	15									
8m 以上 15m 未 満	—	×	×		×	×	×	×	1種75 2種×			×				
15m 以上 20m 未 満	—															
20 m 以 上	—			×						×	×		×	×	×	×
	—															

(注) ×印は使用不可

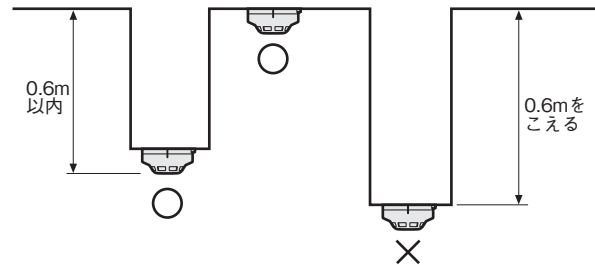
単位：m²

煙感知器 (スポット型)

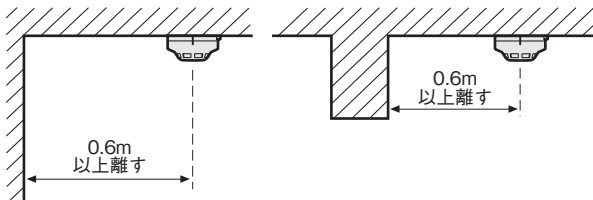
天井付近に吸気口のある居室にあっては当該吸気口付近に設けること。また空気吹出口から1.5m以上離れた位置に設けること。



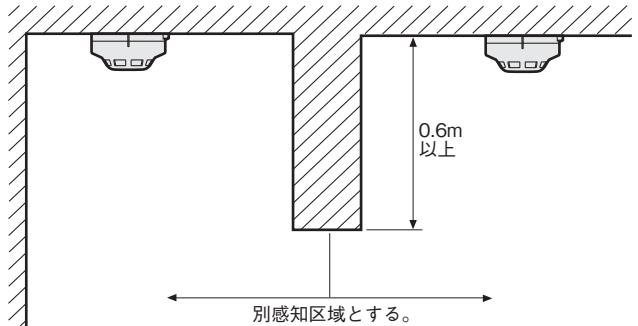
感知器の下端は取付面の下方0.6m以内の位置に設けること。



感知器は壁又ははりから0.6m以上離れた位置に設けること。なお、廊下の幅が1.2m未満のため壁から0.6m以上離れた位置に煙感知器を設けることができない場合は廊下の幅の中心天井面に設置する。

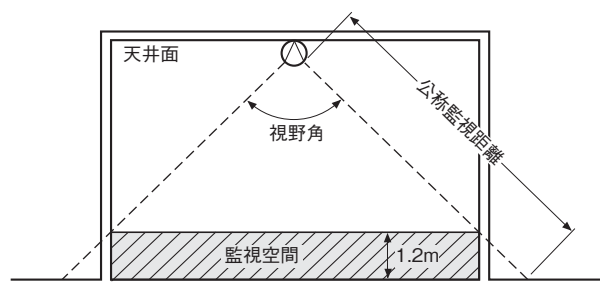


感知区域は0.6m以上のはり等で分けられる。



炎感知器 (道路型を除く)

感知器は天井等又は壁に取付け、床面から1.2mまでの空間の各部分から、当該感知器までの距離が公称監視距離の範囲内となるように設けること。



炎感知器は床面から高さ1.2mまでの空間を監視できるように設置しなければなりません。感知区域内に1.2mを越える障害物がある場合は、別に感知器を設置する必要があります。

